



慶應義塾大学

教養研究センター

Keio Research Center for the Liberal Arts



未来に生き延びるための知恵とは何か

慶應義塾大学教養研究センター所長
慶應義塾大学法学部教授

片山 杜秀



1991 年のことです。文部省（現文部科学省）が、大学の教育内容に関する大規模な規制緩和を行いました。「大学設置基準の大綱化」と呼ばれています。大学生が学部を卒業して学士となるためには、124 単位を取得しなければならない。そこは昔も今も変わりません。でも、規制緩和前には、124 単位の内訳が厳格に定まっていた。すなわち、一般教育科目 36 単位、外国語科目 8 単位、保

健体育科目 4 単位、専門教育科目 76 単位で、計 124 単位。ここで私事となって恐縮ですが、規制緩和前の学生で、しかも極度の運動嫌いでしたので、保健体育科目の卒業単位取得に七転八倒したことを思い出します。

閑話休題。この単位の内訳についての規定が 1991 年に取っ払われました。124 単位の中身を原則として大学ごとに按配してよいことになったのです。あくまでも私見ですが、当時の文部省としては、大学教育の中でも、一般教育等の「教養教育」と呼ばれてきた部分よりも、専門教育の部分をもっと強めた方が、新しい時代に有益と考えていたのだと思います。1991 年はソヴィエト連邦が最終的に崩壊した年で、その 2 年前には「ベルリンの壁」が崩壊していました。世界はまさに変革期に差し掛かっていた。これから先きとどの分野でも知識は高度化し専門化するだろう。そちらに対処するのが大学教育の本領だ。「教養教育」は後回しにならざるを得まい。1991 年頃にはそうした予見が文部省に限らず世の中全体に強く働いていたでしょう。

けれどもこの種の未来予測は当たっていたでしょうか。教養の語義は掘れば掘るほど多様に広がりますが、ひとつ大きく、リベラル・アーツという英語と結びついています。リベラル・アーツを「超訳」すると「自らの力で、判断ミスも少なく、なるだけ自由に世渡りするのに、必要な技芸」とでもなりましょう。「なんだ、それはつまり単なる常識だろう」と言われそうですが、ここから先が実は厄介。冷戦構造崩壊後、政治の変数は増え、資本主義の高度化によって経済の変数も増え、価値観の多様化によって社会や文化の変数もこれまた増え、科学の発達は加速化して常人には理解不能な域に。幾ら勉強しても教養が不足して世渡りに困る時代が 21 世紀。そんな風に言えますまいか。

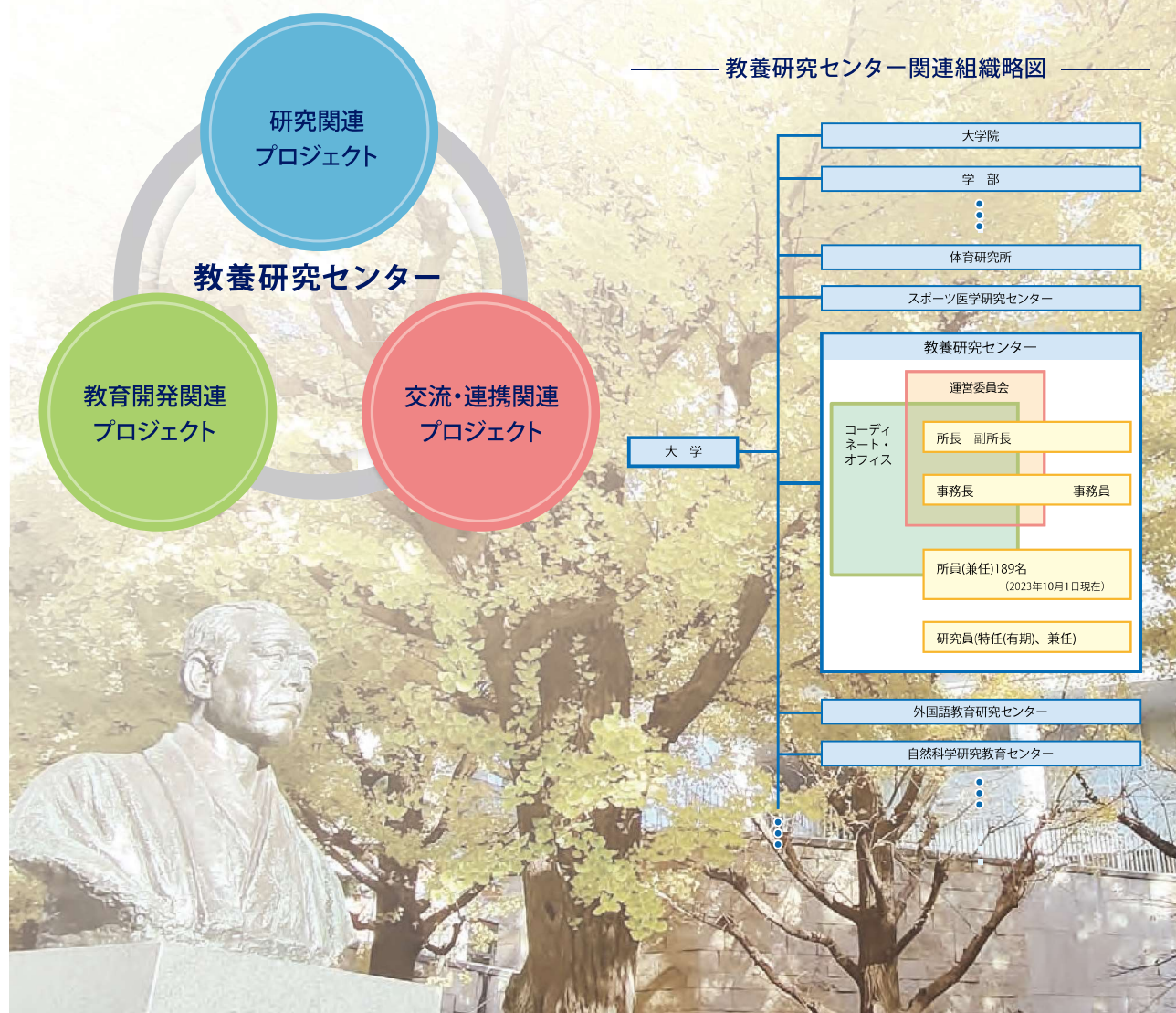
専門家である前に、常識ある教養人であれ。耳にしがちなフレーズでしょう。ところが、常識ある教養人になるのがとてつもなく難しいのが当世というもの。そこで大学がもっと機能しなければ！ ある日本の教育社会学者は、大学の学部の 4 年間を「教養教育」に特化して、専門教育は大学院に任せるべきと、主張しています。それはやや極端としても、「教養教育」を今日的に深めて進化させることが大切な課題だということに間違いはありませんまい。21 世紀が始まったばかりの 2002 年に、この教養研究センターが設けられたことは、大げさに申せば歴史の必然、時代の啓示でありましょう。今日の教養、未来に生き延びるための知恵とは何かを問い続け、そのための教育に資する機関として、精一杯のことを致したく存じています。何卒よろしく御願い致します。

教養研究センター 3つの取り組み

教養研究センターの活動には、次の三つの柱があります。

- 「教養」の本質を見極めるための研究
- 「教養」を身につけるための教育
- 「教養」についての研究・教育を実現するための交流・連携

教養研究センターの三本柱は、独立しつつ共同して本センターの理念を支えています。



活動の源泉となる資金面の支援

教養研究センターは、文部科学省からの補助金や神奈川県からの受託費、企業からの寄付金など、学外からの資金も得ながら、研究、教育、社会連携活動について、先進的かつ独創的な取り組みを展開しています。

2000～2004年度：文部科学省学術フロンティア推進事業「表象文化に関する融合研究」プロジェクト
2005～2007年度：文部科学省学術フロンティア推進事業「超表象デジタル研究」プロジェクト
2009～2011年度：文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム（教育GP）「身体知教育を通して行う教養言語力育成」
2015～2016年度：神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア講座実施業務受託「文化としての病と老い」
2002～2022年度：極東証券寄附講座、住友生命保険寄附講座、龍角散寄附講座、株式会社白寿生科学研究所寄附講座、株式会社コーエーテクモホールディングス寄附講座など
2023年度～：株式会社コーエーテクモホールディングス寄附講座、株式会社アカツキ寄附講座、小佐野弾寄附講座

研究関連プロジェクト

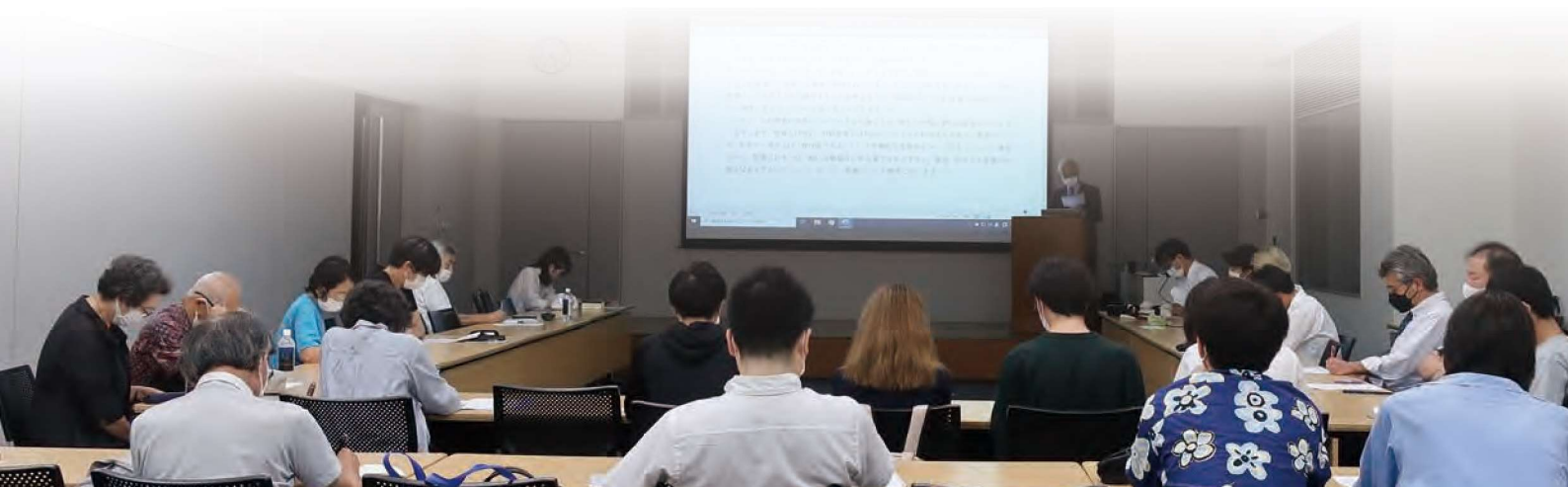
「教養」の本質を見極め、それを実践するための 教養教育を考究し、その研究成果を発信し続けます。

慶應義塾大学教養研究センターは（１）学問の発展、（２）教養教育、（３）高度専門職教育、（４）健全な学生生活の四つが大学の使命を果たすために必須であると考えています。この四つは、大学という場において相互に関連し重なるものですが、当センターは、「教養」の多様な役割について特に大きな関心を持ち、探究しています。社会の先導者たらしとするものは、「教養」を土台にして、学問的にも人間的にも広い視野にたつて、先端的研究を行わなければなりません。それなくしては、いくら高度な技術を身につけようと真にそれが人類にとって有効に活かされることはないからです。

■ 基盤研究、一般研究、研究交流

教養研究センターでは、開所以来、「教養」および教養教育のモデルについて活発に議論・検討を重ねてきました。その成果は、「カリキュラム研究」「身体知研究」、あるいは、学術フロンティアとして、慶應義塾大学全体における教養教育の改革と発展に寄与するとともに、「**アカデミック・スキルズ**」「**身体知**」といった新しい教養科目を立ち上げる力となりました。そして教養の本質に立ち返ってその定義を考えるために、「基盤研究」の一環として、新たな教養研究のためのプロジェクト「**教養研究会**」を2017年度より立ち上げました。この基盤研究では年2回の研究講演会と秋学期のシンポジウムを中心に教養研究を推進しています。

さらに、日吉キャンパスの多様な研究者集団と教育技術を活かした新しい専門分野の開拓を目指して、研究者同士の交流を推進し、多くの研究ワークショップを開催しています。その一例として「**研究の現場から**」や「**読書会推進企画〈晴読雨読〉**」は教養研究のための情報交換を促し、研究者間の繋がりを深めるのに役立っています。また、本センター所員が、独創的な論考を平易なスタイルで紹介する**センター選書**の刊行や、「**学会・ワークショップ等開催支援**」によって日吉キャンパスの研究活動の活性化を図っています。2017年には「**教養研究プロジェクト**」、2019年には「**文理連接プロジェクト**」が開始され、「**文系**」「**理系**」にとらわれない総合的な視野に基づいた講演会や研究会が行われています。これらの成果は、国内外に開かれており、今後広く議論されて、さらに大きな果実を生むことでしょう。研究の透明性と自由な議論を確保しつつ、研究成果の公開と発信を積極的に行っていきます。



教育開発関連プロジェクト

学部・学科の壁にとらわれない独自の内容による授業を開講し、教養教育の発展に寄与します。

教養教育についての研究を重ね、実験授業を経て寄附講座へと発展した授業を多数開講しています。

■ アカデミック・スキルズ

論文の書き方とプレゼンテーションの仕方を、1 クラスあたり約 20 人の学生を 2 ～ 3 人の教員が徹底指導します。学部 1 年生のうちから卒業論文の執筆スキルを身につけられます。

■ 生命の教養学

生まれる、育てる、病む、老いる、蘇る。「生命」を掲げれば、医・生物・文・経済・社会等の学問が、文系・理系の仕切りを越えてつながります。「贈与」や「死と再生」など、毎年テーマを変え、多彩なゲストを招き、オムニバス形式で講義を行います。

■ 身体知

「教養を身につける」と言います。そのためには身体で知る授業が欠かせません。

朗読と演技とパントマイムや舞踊を組み合わせた「創造的コミュニケーションと言語力」。合唱、オーケストラ、古楽器アンサンブルなど演奏実技を鍛練する「音楽」。シナリオ執筆、演出、撮影、照明、録音、編集等のプロフェッショナルな技術を身につけながら、実験的な劇映画を制作する「映像」。以上の 3 科目から成ります。

※「身体知・映像」は 2024 年度休講

■ 日吉学

日吉キャンパスは、考古学上の遺跡、1200 種を超える生物が生息する森、日本海軍の秘密基地や建築史上重要な建造物等の宝庫です。日吉を「探検・体感」し、新鮮な発想をぶつけ合いながら、現代社会に求められる課題発見力・解決力を涵養します。

■ ゲーム学

今日、ゲームはさまざまな分野で重要な意味を持つようになっています。教養研究センターでは、ゲームをアカデミックな研究対象として、ゲーム業界への就職を希望している塾生に向け、「ゲーム学」を創設しました。産業・文化・技術など、各分野の専門家とともにゲームの現状や、ゲームとは何かを考察していきます。

■ エンターテインメントビジネス論

エンターテインメントビジネスについて、第一線の研究者と最前線で活躍する実務家によって、アニメ・ゲームに係わる IP の開発・展開に関する方法論を体系的に学ぶことができます。エンターテインメント業界で働きたい学生に必見の講座です。

上記のほか、多様な講座や催事を展開しています。「情報の教養学」は刻一刻と変化する情報環境をテーマに、各分野の最先端で活躍する講師を招いて行う講演会。「庄内セミナー」は山形県庄内に滞在し、修験体験などを通じて、生命観を学ぶもの。「ピア・メンタリングシステム」は、「アカデミック・スキルズ」の修了者が中心になって図書館で学習相談に応じるものです。



教養は、過去に人類が研究し、思索し、創造することで遺してくれた財産を、現代の私たちが受容する力を与えてくれます。また、教養は、異なる環境で育ってきた人間同士がお互いに思想を交換し、それを磨き合う機会を与えてくれます。交流と連携は、私たちが教養を身につける手段であるとともに、教養の目標でもあります。

慶應義塾大学が「地域に開かれたキャンパス」としての役割を果たすために発足したこの講座は、多くの分野・領域に渡る慶應義塾の研究・教育成果を広く一般に還元し、学びの機会を提供することを目標としています。当講座の前身は、1980年に横浜市からの要請により「横浜市民大学講座」として設置され、24年間にわたり開講されました。2004年度より「日吉キャンパス公開講座」へと姿を変え、毎年秋に約350名のさまざまな年齢層の受講者に参加いただいています。この公開講座において、教養研究センターは、受講者の知的関心に応えるために、時代の変化を読み解きながら様々なテーマ設定を行っています。

教職員・学生のための実践活動です。その目的とするところは、教養における「知」を、頭の中に閉じ込めず、精神と肉体の両方において理解し表現することで有機的な発展を実現すること、そして、大学とは自由な発想をもって学問に向かい合う場であることを、自らの身体活動と地域・他大学・教職員との連携を通して体感し理解することです。HAPP では、①春の新入生歓迎行事企画と②秋の公募企画を二本の柱と定めて行事を企画・開催しています。教養研究センターは、さまざまな形で交流と連携を実践し、あらゆる人々、あらゆる場面を〈広く強くしなやかに繋ぐ力〉としての教養を模索していきます。



教養研究センターのあゆみ

※各年度とも、主な事業を掲載しています。また、各事業はいずれも相互に関連していますが、主たるプロジェクトに分類しています。

年 度	研究関連プロジェクト	教育開発関連プロジェクト	交流・連携関連プロジェクト
2002	7月 慶應義塾大学教養研究センター開所、羽田功所長就任 9月 開所記念シンポジウム「教養教育をめぐって」 12月 文部科学省学術フロンティア推進事業「表象文化に関する融合研究」プロジェクト、教養研究センター事業に移管（2000年度採択～2004年度まで）	7月 教養教育に関するアンケート企画・実施	5月 新入生歓迎行事「第1回日吉能 清経」（シテ 坂井音重） 10月 恒東証券寄附公開講座「『教養』とは何かーよりよく生きるためにー」（全10回）
2003	4月 「表象文化に関する融合研究」プロジェクト中間発表パネル展示 10月 連続セミナー「FDを考える」（～2007年3月まで全7回） 3月 教養研究センター選書発刊開始（現在に至る）	7月 シンポジウム「自然科学系を核とした教養教育の将来」 10月 実験授業「スタディ・スキルズ」開講 11月 シンポジウム「身体知を核とした教養教育の将来」	10月 恒東証券寄附公開講座「生命の魅惑と恐怖ー生命にまつわる多彩な知をめぐって」 12月 HAPP企画「塾長と日吉の森を歩こう」 12月 シンポジウム「開かれ行くキャンパス 1 国際学生懇談会 in Hiyoishi」開催
2004	10月 横山千晶所長就任 11月 「表象文化に関する融合研究」プロジェクト最終報告会 1月 韓国教育研究機関訪問 3月 「表象文化に関する融合研究」報告書発行（全7巻）	4月 「スタディ・スキルズⅠⅡ」正規授業化 9月 「生命の教養学」正規授業化 2月 スタディ・スキルズ プレゼンテーション・コンペティション開催	10月 「横浜市民大学講座」を「日吉キャンパス公開講座」に改称、「21世紀と私たちー思想・身体・表象・環境・社会・民族」
2005	5月 基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究」発足（～2009年3月まで） 5月 基盤研究「身体知プロジェクト」発足（～2010年3月まで） 7月 遠山敦子元文部科学大臣・安西祐一郎塾長特別公開対談「教養教育の将来を見据えてー次世代に何をどう伝えるか」 9月 文部科学省学術フロンティア推進事業「超表象デジタル研究」プロジェクト採択（～2007年度まで）	4月 「スタディ・スキルズⅠⅡ」を「アカデミック・スキルズⅠⅡ」に改称 2月 「スタディ・スキルズ プレゼンテーション・コンペティション」を「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション・コンペティション」に改称、開催（現在に至る）	10月 日吉キャンパス公開講座「創作とメディア」
2006	6月 公開セミナー「ミシェル・フーコー使用法」 12月 「新しい教養教育の支援」事業成果報告会 3月 「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究ー改革への処方箋」発行	10月 『アカデミック・スキルズー大学生のための知的技法入門』刊行	9月 「三田の家」開設（～2013年10月） 9月 日吉キャンパス公開講座「自然と科学と人間」 10月 「クリスト&ジャンヌ＝クロード」公開講演会
2007	4月 基盤研究「身体知プロジェクト」声プロジェクト発足 6月 基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究ー改革への処方箋ー」シンポジウム 2～3月 センター活動報告会（内部評価）（外部評価）	6月 教員サポート第1回（現在に至る） 8～1月 「身体知」の実験授業および「身体知・音楽」の授業実践	6月 公開講座「サイエンス・カフェ」開講（～2012年度まで。2013年度より自然科学研究教育センターへ移管） 9月 日吉キャンパス公開講座「モノを創る」
2008	3月 『慶應義塾大学の教育カリキュラム研究ー4年間を見越した教養教育の研究』発行	8月 鶴岡セミナー「鶴岡に学ぶ「生命」一心と体と頭とー」 11月 学び場プロジェクト「ピア・メンターによる学習相談アワー」（現在に至る）	5月 日吉キャンパス公開講座「モノを創る」（3講座各4回） 9月 日吉キャンパス公開講座「記録・記憶と構想の現場」 12月 「三田の家」大学地域連携シンポジウム
2009	9月 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム（教育GP）「身体知教育を通して行う教養言語力育成」採択（～2011年度まで） 11月 基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究（2）ー4年間を見越した教養教育の研究ー」シンポジウム 3月 教育GPプログラム GPシンポジウム「身体知と教養言語力育成」	8月 「鶴岡セミナー」を「庄内セミナー」に改称（現在に至る）、 「庄内に学ぶ「生命」一心と体と頭とー」	5月 日吉キャンパス公開講座「見て・感じて・動いて味わうシェイクスピア」「絵画を聞く、音楽を見る、自我の行方」「創造する自己」「メディア・リテラシー入門」「ゲーテの『ファウスト』第1部を読む」 9月 日吉キャンパス公開講座「天からの文を読み解いてみようー世界天文年に因んで」
2010	4～3月 教育GP関連事業（全43）実施 10月 不破有理所長就任 3月 教育 GP関連企画「身体知教育を通して行う教養言語力育成」中間報告会	4月 「アカデミック・スキルズⅢ 批評と創作」（現在の「身体知・映像」）、開講 6月 実験授業「エディティング・スキルズ」開講 8月 「身体知ー創造的コミュニケーションと言語力」正規授業化 9月 実験授業「アートと文学ーワークショップ Alfred Tennyson, "The Lady of Shalott"の創造的解題：英語版創作をめざして」 2月 大学カリキュラムに関する教員アンケート実施	5月 日吉キャンパス公開講座「実験で学ぶ気象の教室」「自分の位置を正確に知る方法の決定版 GPSの原理と応用」 6月 日吉キャンパス公開講座「理系・文系・ダンス系ー生きること、学ぶこと、働くこと」「体と頭でハムレットー演劇と映画」「バツハー深遠なる魂の響きへを聴く」 9月 日吉キャンパス公開講座「読むことの過去と未来」
2011	5月 「研究の現場から」第1回（～2019年度まで） 1月 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム（教育GP）最終報告会および外部評価	7月 教育カリキュラムシンポジウム「これでいいのか？日吉のカリキュラム」（2010年2月実施のアンケート結果に基づく）	4月 HAPP企画「鯉嶋能 羽衣」（シテ 坂井音重） 10月 日吉キャンパス公開講座「災害とメディア」
2012	6月 「学びの連携」プロジェクト発足（現在に至る）第1回公開セミナー「学生の主体性を育む教育方法の探求ーケースメソッドの効果的運用の試案ー」 10月 小柴昌俊博士講演会「宇宙、人間、素粒子」	4月 「身体知・音楽ⅠⅡ」正規授業化 6月 開所10年記念企画「学生論文コンテスト」開催概要の発表（表彰式2013年2月5日） 3月 開所10年記念企画映像公開（15本）制作	9月 日吉キャンパス公開講座「東北の魅力再発見 日本ってなんだろう」 11月 開所10年記念企画「学びの旅のすゝめ：みちのく見聞録」（センター企画・JTB法人東京主催）
2013	6月 基盤研究「慶應義塾大学の教育カリキュラム研究ー学事日程と日吉キャンパス」シンポジウム	4月 「アカデミック・スキルズⅢー批評と創作」を「身体知・映像」に改称（現在に至る） 4月 「情報の教養学」第1回講演会（現在に至る） 11月 実験授業「日吉学」開始 12～1月 コレギウム・ムジクム・オペラプロジェクト《コジ・ファン・トゥッテ》	10月 日吉キャンパス公開講座「人の形ー身体表現と認識、身体は今とこれから」
2014	10月 小管隼人所長就任 3月 リサ・バルデス ダートマス大学教授講演会「超一流リベラルアーツ・カレッジの考え方」	10月 教養研究センター監修「学生による学生のためのダメレポート脱出法」刊行	10月 日吉キャンパス公開講座「言葉と想像の翼」
2015	3月 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア講座研究会	4月 実験授業「身体知・音楽（発展・音楽クラス）」（のちの「身体知・音楽ⅢⅣ」）開講 10月 教養研究センター監修「クリティカル・リーディング入門」刊行	10月 日吉キャンパス公開講座「色と紋様の世界」 10月 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア講座事業に採択、「文化としての病と老い」開講
2016	4月 読書会推進企画「晴読雨読」（現在に至る） 2月 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティアワークショップ	4月 「身体知・音楽ⅢⅣ」正規授業化 12月 コレギウム・ムジクム・オペラプロジェクト《ドン・ジョヴァンニ》	10月 日吉キャンパス公開講座「地方の力と「再生」」 10月 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア講座事業に採択、「文化としての病と老い」開講
2017	5月 基盤研究講演会no.1 開催（現在に至る） 10月 基盤研究「教養研究」シンポジウムno.1 開催（現在に至る）	5月 実験授業「日吉学」モニター募集	10月 日吉キャンパス公開講座「観光と開発」
2018	4月 センター主催 読書会4件開催	3月 コレギウム・ムジクム カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学生との交流コンサート「ドイツ・バロックの音風景」	9月 日吉キャンパス公開講座「ルールと作法」 2月 羽田功教授最終講義「異端の教養学」
2019	4月 基盤研究文理連携プロジェクト「医学史と生命科学論」研究会（～2020年度まで）	9月 「日吉学」正規授業化 3月 「アカデミック・スキルズ10分講義ビデオ」新シリーズ公開（現在に至る）	9月 日吉キャンパス公開講座「出口戦略とその先の未来」
2020	11月 「研究の現場から」第28回オンライン開催（現在に至る）	11月 <選書刊行記念企画>著者と読む教養研究センター選書（現在に至る） 1月 庄内セミナー：特別講話（動画）公開	12月 HAPP企画 新入生歓迎行事 笠井舞舞踏公演「日本国憲法を踊る」（無観客収録配信）
2021	4月 基盤研究文理連携プロジェクト「医学史と生命科学論」研究会を「基盤研究文理連携プロジェクト」に改称（現在に至る）	10月 実験授業「ゲーム学」開講	10月 日吉キャンパス公開講座「二刀流の豊かな世界」 2月 武藤浩史教授最終講義「モダニズム文学のスピリチュアリティーズ」
2022	10月 片山杜秀所長就任	5月 実験授業「エンターテインメントビジネス論」開講 10月 「ゲーム学」正規授業化	6月 HAPP企画「能の流儀一謡と仕舞ー」（講師 坂井音雅、他） 9月 日吉キャンパス公開講座「舞台裏のストーリー」 2月 不破有理教授最終講義「アサー王伝説に魅せられてー研究と教育とー」
2023	4月 文理連携プロジェクト論考集「連接 NO.1」刊行	4月 5～11月 「エンターテインメントビジネス論」正規授業化 みなさんmiraiプロジェクト	10月 日吉キャンパス公開講座「人生100年に備える」

Publications

教養研究センターで行われている研究・教育・交流活動は、各種刊行物やウェブサイトにて発信しています。

https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/publication_list.php



教養研究センター選書

教養研究センター所員の研究活動を広く知っていただくため、公募と審査を経て、一般読者向けに「教養研究センター選書」を毎年、慶應義塾大学出版会より刊行しています。

- ・『ベースボールを読む』吉田恭子、2014 年
- ・『ダンテ『神曲』における数的構成』藤谷道夫、2016 年
- ・『ペルーの和食—やわらかな多文化主義』柳田利夫、2017 年
- ・『ロシア歌物語ひろい読み—英雄叙事詩、歴史歌謡、道化歌』熊野谷葉子、2017 年
- ・『ジョン・ラスキンの労働者教育 —「見る力」の美学』横山千晶、2018 年
- ・『修身論』の「天」—阿部泰蔵の翻訳に隠された真相』ミヤン・マルティン、アルベルト、2019 年
- ・『理性という狂気—G・バタイユから現代世界の倫理へ』石川学、2020 年
- ・『コミュニティと芸術—パンデミック時代に考える創造力』横山千晶、2021 年
- ・『『ダフニスとクロエー』の世界像—古代ギリシアの恋物語』中谷彩一郎、2022 年
- ・『『アーサー王物語』に憑かれた人々—19 世紀英国の印刷出版文化と読者』不破有理、2023 年
その他 10 冊以上

書籍

極東証券寄附講座「生命の教養学」の授業をまとめた「生命の教養学」シリーズの他、教養研究センター監修の書物も随時刊行しています。

- ・『学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員、2014 年
- ・『生命の教養学 15—組織としての生命』荒金直人 編、2019 年
- ・『生命の教養学 16—生命の経済』西尾宇広 編、2020 年
- ・『プレゼンテーション入門—学生のためのプレゼン上達術』大出敦 他、2020 年

報告書・レポート・ニュースレター

教養研究センターで開催したシンポジウム、講演、調査・研究、交流・連携は、報告書として刊行しています。
また、年 2 回発行のニュースレターや「CLA アーカイブズ」では、当センターの多角的な活動を随時紹介しています。

学生論文集

教養研究センターの設置科目「アカデミック・スキルズ」で執筆された学生論文は、毎年一冊の本にまとめられ、『アカデミック・スキルズ学生論文集』として刊行されています。



〈2024 年度寄附講座協賛企業〉



株式会社コーエーテクモホールディングス



Akatsuki

慶應義塾大学 教養研究センター

〒223-8521

神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

TEL: 045-566-1151

メールアドレス: toiawase-lib@adst.keio.ac.jp



<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

ACCESS

- 東急東横線・東急目黒線・東急新横浜線
東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。
- 横浜市営地下鉄グリーンライン
「日吉」駅下車、徒歩 1 分

渋谷～日吉：約 20 分
横浜～日吉：約 17 分
新横浜～日吉：約 6 分

